

平成30年3月23日

長与町議会
議長 内村 博法

研修報告書

長与町議会議員研修要綱第7条の2の規定により、次のとおり公表します。

1. 研修名（主催者） 議員研修会（西彼杵郡町議会正副議長会）

演 題 「大村湾を生かしたまちづくり」
講 師 大村湾議員連盟事務局長 大崎 敏明 氏
 Diving Service 海だより 中村 拓朗 氏
コーディネーター 大村湾議員連盟事務局長 野島 進吾 氏
2. 研 修 日 時 平成30年1月26日（金）15時00分開会
3. 研 修 先 長与町南交流センター
4. 研 修 目 的 議員の資質向上及び議会の活性化に資するため
5. 所 見 （ 成 果 ） （記載は議席番号順）

【 浦川圭一議員 】

今回は大村湾沿岸議員連盟の取組と大村湾の現状を説明していただいた。講師の見解では、「大村湾は豊かで美しく、命が溢れていて、決して汚れた海ではない」との結論を聞き、安心した。しかしながら、生物の大量死を招く「貧酸素」現象が毎年発生し、近年その規模が増加傾向にあるとのことで、その対策を尋ねたが、台風等の自然現象で海水が攪拌されることを期待するしかないとのことであった。また、近年減少している漁獲量について増やす対策はないかとの質問を試みたが、乱獲によって減少してきたと思うが、急激に増やしていくことは難しいだろうとのことであった。今後、大村湾の環境保全について、現在までに堆積土砂の浚渫等の要請もしてきたが、その土砂についても湾を浄化している必要不可欠なもので、またそこに生息する「アマモ」についても藻場として重要な役割を果たしているとのことであった。今後、議員の立場でどのように取り組んでいくか、再考すべきと感じた。

【 安部都議員 】

今回「大村湾を生かしたまちづくり」について、関係者から初めて詳しく話を伺った。なかなか新鮮なものであったし、私たちが考える大村湾のイメージとはかなり異なるものであ

った。それは、良い意味での大村湾に対して新発見をさせられた。ダイビングをされている中村氏によって、長与沿岸や大村湾の海底を写真で見せて頂いたが、とても沢山の生物が溢れ、綺麗な海だということが理解できた。とくに海底には、アマモという藻や海藻が生息し、その周りには多くのエビやカニや海を浄化する生き物が暮らし、生物たちにとってかけがえのないものであるという。

そんな綺麗な大村湾も人間の手によって、生活排水の有害物質を流すことで、急速に失われつつあるということだった。干潟や自然海岸など「海を浄化する渚」を消失させないようにしていかなければならない。現在、大村湾では、1周150kmでの全国から参加者を招き「海フェスタ」を開催している。海の「貧酸素状態」を起こさないよう、自然をこれからも守り、環境改善作戦のため様々なご努力を重ねていることがわかった。私たちも環境に気を配り、大切な大村湾の資源といのちを守っていかなければならない。大変考えさせられ新たな発見をした講演会でした。

【 饗庭敦子議員 】

大村湾の隣接する市町で協力しながら、大村湾の良いところ取り入れてまちづくりに生かしていきたいとの思いは理解できた。しかし、具体的なイメージが話の中では私には見えて来なかった。

その中で、水中ガイドさんの説明により、大村湾の汚染されている、生き物が少ない、濁っているというふうに思っていたが、実際は豊かで、美しく、命が溢れている海だと理解した。

長与町も近隣市町と協力して、大村湾の環境改善に取り組めるように議論していきたいと思った。

【 安藤克彦議員 】

・講師 大村湾沿岸議員連盟大崎事務局長

私が大村湾沿岸議員連盟をよく理解していなかったために、主旨や活動を理解することはできた。熱心な活動には敬意を表す。ただ、主体となって活動する大村市と周辺市町とでは温度差があるように感じる。相当額の補助金を使って海フェスやZEKKEIライド等熱心な取り組みを行っているが、それらの活動自体が果たしてこの組織が行うべきなのか疑問に感じる。(ZEKKEIライドと同様な事業を大村JCが行っていたと思うが)

・講師 「海だより」中村拓朗氏

普段見ることのできない海底の様子を教えていただき、閉鎖性海域のため汚れてきているとの思い込みを改めるきっかけとなった。また、自ら漁業者となって大村湾再生への取組のきっかけを作られていること、またその内容がとても参考になった。

何よりも町や住民が長与川・大村湾に対して行っている環境保全への取組が実を結んでいることを実感した話であった。

【 金子恵議員 】

大村湾を中心としたまちづくりに、各自治体が賛同することで生まれる効果は計り知れないのではと感じた。ここを拠点に、水産業、農業、工業、商業が発展することで相乗効果を

生み、それが長崎県を元気にするきっかけになればと思う。本町もこの大村湾に面しているが、ここを利用した何かに取り組んでいるかという点はまだ活用できていないと感じている。

そこにある資源を利用した産業の発展を考えていきたい。

【 分部和弘議員 】

今回の研修の中で、大村湾のイメージが変わってきました。実際の海をただ表面だけしか見ていなかったと思います。思えば、2年程前に潮井崎公園横の川から海への栄養分の流れを、ダイバーが観察していたことを思い出しました。きれいな環境を継続して行く事が難しい中で、各種取り組みが行われ、継続的に大村湾の浄化に向けて取り組んでいる方々に感謝します。私も出来る限り今回の研修を受けて、大村湾に対する思いと、汚さない取組を微力ながら出来ればと思いました。

【 西岡克之議員 】

今回の研修は、2名の方が講師として登壇して頂いた。大崎氏は大村湾岸議員連事務局長の立場で、我々議員が大村湾のもっと意識を高め関わる事が大切だと訴えられた。私も本町の議員が2名しか連盟に加入していない現実を聞き、おそらく私と議長の二人だけであろうと認識している。私たちよりもっと大村湾側に住んでおられる議員の方々もおられるのに、意識の低さではないだろうか。今後、今回の講習を契機に、より多数の加入者が増えればと期待したい。

中村拓朗氏の講演は大村湾に実際に氏が海中に潜って写真を撮り、それを基にして我々が知らない様々な海中の現象を分かりやすく講義して頂いたのは受ける方は説得力があった。その中でも、大村湾の海水が冬場には7度くらいで推移していくことを利用してホタテの養殖が行われていることや中村氏自ら大村湾漁港の準組合員としてウニを養殖し、餌にキャベツを用いて養殖の実験モデルを製作することで、今まで実を付けていなかったウニが実を付けるようになったことなど興味をひいた。スライドも本町の馬込鼻を例にとり、実際に潜った映像を使い説明され分かりやすかった。今後も氏の活動に理解を示し、大村湾の環境改善や利活用に興味を示していきたいと思う。

【 岩永政則議員 】

今回の研修は、本県のほぼ中央部に位置する波静かな大村湾に視点を当て「大村湾を生かしたまちづくり」と題し、講演会方式による研修会であった。

講師は大村湾沿岸議員連盟事務局長の大崎 敏明氏、インストラクターの中村 拓朗氏及びコーディネーターとして野島 進吾氏の3人。はじめに大崎氏から、沿岸議員連盟の現状を説明。

会員は現在170人、会費は年間2,000円。

加入の促進があった。長与町議会議員は2人とのこと。私は以前加入。全員の加入が必要。

活動の状況では環境衛生研究センターとの連携、一昨年からは、日本財団の支援による大村湾フェスタをはじめ海をテーマに勉強。自転車での大村湾1週150キロのロングコース等のイベントの開催。他に稚魚の放流、いかだレース、綱引き大会、棚田と川の保全など、沿

岸市町での取り組みが行われている。

要は議員連盟への加入促進と議員間の連携の必要を感じたところである。

次に、インストラクターの中村氏の講演では、大村湾における水中の観察を行い、その実像を教授いただいた。

資料を以って示された大村湾のイメージとしては、

- 1) 汚れている。
- 2) 汚染されている。
- 3) ヘドロが堆積している。
- 4) 生き物が少ない。
- 5) 濁っている。

とよく言われているとのこと。

ところがどうでしょう。

- * 海草（ウミヒルモ）の草原・・・クロダイ（チヌ）の子が食べている。
- * 海草（アマモ）の群落・・・大村湾に最も重要な藻場（浄化作用が高い）がある。
- * カミナリイカ（モンゴイカ）、タツノオトシゴ、イイダコ、アイナメ、カスリハゼ、カナガシラなど多くの魚類が生息しているのである。

率直に感じたことは大村湾がこのように美しく、水質がきれいであることを再認識したところである。

だが、生物の大量死も起きている。それは、江戸時代から起きているそうで、近年その規模が増加傾向にあることが問題であると指摘された。

また、夏場（6～8月）に起きる貧酸素減少で、上層は酸素があるが、下層は酸素の無いいわゆる貧酸素となるそうだ。そのことにより魚類等が死滅するとのことである。

水質の浄化には、湾内に流れ込む有害物質除去が大切である。行政・住民の協力が重要。

最後に、講師は「私のぞく大村湾は豊かで、美しく、命があふれています。決して汚れた海ではありません」と言及され、さらに「水産で価値ある海、大村湾である」と結ばれた。

【 喜々津英世議員 】

大村湾沿岸議員連盟の名称は知っていたが、議員連盟の会員には未加入であり活動には関心がなかった。研修会テーマは「大村湾を生かしたまちづくり」で興味はあったが、大村湾を生かすという点での取り組みは、大村湾沿岸の各市町で違うと思う。

一方、「ダイビングサービス海だより」の水中ガイド中村氏は、大村湾は「汚れている」「汚染されている」「ヘドロが堆積している」「生き物が少ない」「濁っている」と負のイメージがあるが、実際はどうなっているのかについて、写真を使用して現状説明があった。

長与町も昭和 40 年代後半から大型住宅団地の開発が進み、特に昭和 57 年 7 月の大水害時には、大村湾に大量の土砂が流れ込んだ。その後、海に潜る機会があったが、海底の藻を揺すってみると藻に付着した泥で濁ってしまう状況があった。

このことから、ヘドロが大村湾の水質環境を悪化させていると感じていたが、「良質なヘドロは大村湾を浄化している必要不可欠な存在」であり、「取り除くべきはヘドロではなく流れ

込む有害物質である」と聞かされた。

大村湾には豊かな自然が残されているが、その豊かさは近年、急速に失われつつあるとの説明もあった。大村湾を豊かな海にするための活動の必要性を感じた研修会だった。

【 山口憲一郎議員 】

大村湾沿岸議員連盟の事務局長の講演を聞いて、事業の計画から資金調達まで熱心な取組をされていることが分かった。今年度は大村湾沿岸自治体を巻き込んでの取組も行っており、Zekkei ライド事業では全国に大村湾の魅力を発信すると共に、交流人口の拡大にも取り組まれている。

海だよりの中村氏の講演では大村湾がいかに綺麗な、素晴らしいか、豊かであるかと多くの魅力を伝えていただき、大村湾の魅力を再発見することができた。特に「大村湾は熱しやすく冷めやすい」と例えて言われた冬場の海水温度の低さを生かしたホタテの蓄養の可能性と磯焼け対策に繋がるかもしれない葉物野菜を使ったウニの養殖に取り組んでいる話はとても興味深かった。

今回の講演を聞き、豊かで美しい大村湾を次世代に繋いでいくために頑張らなければと感じた。

【 堤理志議員 】

大村湾をいかしたまちづくりを演題に、大村湾沿岸議員連盟の方、および Diving Service 海だより ガイド・インストラクターによる講演であった。

沿岸議員連盟の活動として、大村湾の浄化や、周辺市町の活性化に資する事業をおこなっていることが紹介された。具体的には海フェスタ、稚ナマコ、カサゴ（稚魚）等の放流で、子どもたちも多く参加しているとのことであった。

これらについて、日本財団からの補助を得て事業を実施してきたが、今後、補助が見込めないとのことで、他からの補助を模索している旨説明がなされた。

Diving Service 海だより ガイド・インストラクターの講演は、大村湾の海中で撮影された映像を紹介するもので、美しい生態系が維持されていることを知ることができた。

大村湾で多様な生物が生息している状況を、沿岸自治体の多くの住民に知っていただくことが、重要と感じた。

<課題>

本町は湾内への悪影響を及ぼすことは少ないと思っていたが、今回の研修を機に、長崎県が実施した大村湾の環境調査についての資料を読んだ。これによると、大村湾はCOD及び全窒素について、環境基準が達成されていない状態が続いている。長与浦も環境基準値を超えている。また、河川中域、下流域では、汚濁や浮遊ゴミが



図5 環境基準点別 大村湾COD75%値 (黄色は環境基準超過)

見受けられる。大村湾は波穏やかな海域であるにも関わらず、ほとんどの護岸がコンクリートで囲まれ、また河川についても護岸がコンクリート張りになっているものが多い。これらの結果、物質循環が少なく貧栄養化が進んでいるのではないだろうか。

こうした状況や、県が推進している石木ダムの建設を容認していて、環境の維持、改善ができるのか非常に疑問を感じる。全国的には護岸コンクリートによらない、環境に配慮した消波対策の研究、実践の事例もある。また、身近な有明海では諫早湾干拓事業の堤防締め切りで、水産業の不振だけでなく、干拓地の営農者からも農業被害の訴えがだされるにいたっている。身近な海の環境問題は、こうした点もふくめ考えていかなければならない。

【 河野龍二議員 】

「大村湾を生かしたまちづくり」について

講師 大村湾沿岸議員連盟事務局長 大崎敏明氏

大崎氏の取り組みには感銘を受けた。

大村湾を生かした取り組みの中で、日本財団に資金の要求など、精力的な活動をされているのは敬意を表したい。

これまで、こうした活動が行われていること事態知らなかった。

このような活動が行われている事を学んだことについては大変良い研修だったと思う。

しかし、大村湾を生かしたまちづくりには繋がっているとは残念ながら至ってないと思う。

今回の研修は、今後の取り組みをどう広げると投げかけられた研修だったと思うが、報告された活動が湾岸沿岸の住民や自治体を巻き込んだ取り組みに至っていないのが多少残念である。

「大村湾を生かす」の言葉で、どう生かすのか？産業なのか？観光なのか？自然環境を生かすのか？何を一番に考えるのかがもう少し明確になれば良かったと思う

Diving Services 海だよりガイド・インストラクター 中村 拓朗氏

渚が育む大村湾

中村氏の講演は興味深く、大変学ばされた。

確かに大村湾のイメージは透明度がなく、濁った海水とと思っていたが、多くの魚類とその繁殖に必要な、海藻、海草が繁殖している事。

また、大村湾特有のヘドロもまた、大村湾で生殖する生き物に大変重要な役割を果たしていること。などがイメージとは全く正反対だった。

しかし、その大村湾の優れた環境も失われつつある事も事実であり、中村氏が取り組む環境保全の取り組みこそ、湾岸自治体をあげて支援する必要性があると思った。

今後機会があれば、大村湾の環境保全活動にも参加してみたいと思う研修会だった。

【 吉岡清彦議員 】

大村湾における形状、植物の種類、魚貝類の形態などをよく研究、観察されている発表であり、よく理解できた。

これからもこの大村湾の大切さをよりよく理解し、かつ発展させていく重要性を認識した。

【 竹中悟議員 】

閉鎖水域大村湾は多数の生物が生存する水域である。この現状と環境についての研修であった。主に現状生物の撮影記録、水域別の生物依存、これからの環境対策についての講話であり大変参考になった。

今後、どのような対策が必要なのか、大村湾を囲む行政体が一丸となり、お互いに情報交換しながら協議して行くことが大切であるとする。

【 内村博法議員 】

(1) 大崎事務局長より大村湾に対する思いやこれまでの活動事例など多岐にわたり説明を受けた。昨年は大村湾沿岸5市5町による大村湾フェスタを開催され、その財源の確保等の措置など、大変精力的に活動されていた。その活動や情熱に対し大変感服した次第であり、大変参考になった。

なお、大村湾沿岸議員連盟会員数は現在170名であるが、その中で長与町議会議員の会員は2名となっており、この研修を機会に多くの議員が加入されることを期待したい。

(2) 中村インストラクターより、大村湾の海中生物について実際に撮影した写真をもとにその生態について説明を受けた。それによると、大村湾は汚染され、生き物が少ないなどのイメージがあるが、実際には現在の大村湾は豊かで、美しく、命が溢れており、決して汚れた海ではないことを強調されていた。実際に海に潜られた体験に基づく説明であり、学ぶべき点が多々あった。

また、中村インストラクターのような行動力のある若い研究者に対し、今後、議員連盟として支援する体制が必要と感じた。

上記のとおり大村湾がより一層身近に感じられ、大変有意義な研修であった。

6. 欠席

中村美穂議員